

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092400021		
法人名	(株) イクロス		
事業所名	グループホーム アネックス パル		
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町2666		
自己評価作成日	平成28年6月15日	評価結果市町村受理日	平成28年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3092400021-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成28年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、一人ひとりのペースに合わせた生活を中心に心がけ、生活の中で自分にできる事をしながら、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、自分らしい暮らしが送れるようお手伝いしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは利用者の尊厳を大切に地域の中で安心して暮らしてもらえるようにとの思いを込め「共にゆくり歩こうよ」というホームの理念を掲げ、日々の生活の中で利用者のペースに合わせて過ごせるよう支援を心がけています。また地域の方に向けて認知症サポーター養成講座の開催や施設は地域の災害時の避難場所になっておりその為の備蓄を準備したり、町役場との繋がりも密で講師派遣の依頼を受けて講師を務める等地域や町役場との良好な関係を築いています。また医療機関とパソコン上で情報を共有し連携を図りながら意向に沿った看取り支援の経験もあり、利用者や家族の安心に繋がるよう取り組んでいます。職員は一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を心がけ利用者が家庭的な雰囲気の中で地域と繋がりがながら穏やかにゆくりとした生活ができるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共にゆっくり歩こうよ」を理念に掲げ利用者のペースに合わせ寄り添った支援ができるように心がけています	開設時に職員で考えられたホーム独自の理念は玄関に掲げられ意識づけしています。利用者の尊厳を守り、一人ひとりのペースに合わせゆっくりとした時間を大切に日々の生活支援の中で理念を共有し実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントでボランティアの要請があった時には、休みの職員が手伝いに行き、回覧板や白浜町の広報誌で知った情報から、利用者の希望を優先し出来る限り行事等に参加することで利用者が地域とつながりながら暮らせるように支援しています	自治会に加入しており回覧板で地域の情報を得、地域のお花見会や夏祭り会、小学校や保育園の運動会等に参加したり、日常的に散歩や買い物で出会った方とは挨拶を交わしています。また歌や踊りのボランティアや僧侶の法話の訪問もあり、近所の方に声かけし参加してもらっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通して積み上げてきた認知症の理解や支援の方法は、サポーター研修を開催したり、個人の相談に応じたりすることで地域の人々に活かすことができるように努めています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度の開催で、地域の住民、利用者家族、行政からも参加をして頂き、利用者の近況やサービスの報告を行います。その時々起こった問題などを相談、話し合って頂きそこでの意見は、サービスの向上に活かしています	会議は家族代表や地域住民代表、地域包括支援センター職員、町役場職員の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。状況報告や研修報告、事故については対応策を含め報告しています。ホームの課題について相談しアドバイスをもらいサービスや運営に反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村には頻繁に出向き担当者とは連絡を取り合い、相談なども行えるよう、協力、信頼関係を築いています	町役場担当者とは日常的に関わりを持ち連絡を密にとり相談しやすい信頼関係を築いています。町からの要請で講師に出向いたり、ホームでの研修時に講師を務めてもらう等、相互の協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は社内、外研修に参加し身体拘束について学ぶ機会を持っています。社内では身体拘束ゼロ推進委員会を設置し、身体拘束をしないケアに取り組んでおり、日常の支援の中で「身体拘束にあたるケアではないのか」を絶えず話し合い正しく理解できているかを確認し合っています	身体拘束については内部研修で講師を招き実施したり、外部研修に参加し伝達研修を行い報告書を提出し回覧することで情報を共有し知識を深めています。玄関は施錠せず職員が見守りながら外に出るときは付き添い、対応できずに待ってもらう時は納得が得られるよう説明しています。	

グループホーム アネックス パル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、社内、外研修に参加し、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、日常的に虐待が見過ごされていないか常に注意し予防に努めています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、社内、外研修に参加し、権利擁護について学ぶ機会を持ち、利用者に必要なが生じた場合には、関係者と話し合い、それらを活用できるように支援しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に十分な話し合いを持ち、不安や疑問があれば、それらを解決できるように説明を行い理解、納得頂けるように心がけています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が来所の際には、職員と話しやすい雰囲気づくりを心がけ、不満や意見、要望をくみ取れるように配慮しています。運営推進会議の場や、介護相談員を受け入れ、部外者にも意見、要望を表せる機会を設けています	家族には運営推進会議、面会時や電話で利用者の状況を伝える中で意見や要望を聞いています。意見は出にくい状況ですが個別の要望についてはその都度対応しています。また月に1度介護相談員の受け入れを行い利用者の意見を聞いてもらっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	概ね2カ月に1回会議を持つようにし、職員の意見や、提案を聞く機会を設けています。その時以外で、気が付いたことがあれば絶えず職員同士で話し合いながら運営に反映させています	2ヶ月に1回の社内研修後、ホームの会議を行い意見や提案を聞いています。日々の業務の中で利用者同士の相性を考えた席の配置やテレビの見やすい位置等の提案があればその都度話し合い意見を反映させています。年度末には自己評価を基に個人面談を実施したり、職員の様子を見ながら随時声をかけ話を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得など個々のスキルアップのために協力し合い、職員一人ひとりが向上心を持って働けるように努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2カ月に1度、社内研修を実施し、外部講師を招いた研修も行い参加を義務付けています。職員一人ひとりの力量に合わせた研修には積極的に参加する機会を設け職員のスキル向上に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで、職員が同業者と交流できる機会を設け、その時に出された意見や提案などを持ち帰りサービスの向上となるように努めています		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に寄り添い傾聴することで不安や要望をくみ取り、家族や関係者からの情報を踏まえ本人の安心を確保するための関係づくりに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の安心を考えた上で、家族が困っていること、不安なこと等が解決でき、要望などにも耳を傾け、家族にも安心して頂けるような信頼関係が築けるよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際本人や家族、それらを支える関係者から十分な聞き取りを行い、収集した情報を元に本人が今一番必要としている支援を見極められるよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりのできること、できないことを把握し暮らしを共にする者同士、生活活動の中で協力し合える関係を築く努力をしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設側がすべての支援を行うのではなく、本人と家族の関係を大切にし、共に本人を支えていける関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が築いてきた関係を大切にし、馴染の人が訪ねてきやすい場所作りを心がけ、馴染の場所に出かけることで関係性が途切れない支援を行っています	近所の方や友人、親せきの方が来られた時は居室や応接室に案内しゆっくり過ごせるよう配慮しています。家族と一緒に葬儀などの冠婚葬祭に行かれる場合は事前の準備や喪服の身支度などの支援をしています。墓参りをしたい利用者があり、思いの実現に向けて計画を立て準備を進めるなど思いを知った際にはできるだけ実現できるよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性や性格、感情の起伏等を把握し、関係性を見極め利用者同士が、関わり合い、支え合えるような支援を心がけています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了は、本人が死亡または、退去後に死亡されており、関係は途切れてしましますが、地域に暮らす家族とは出先で出会った際、世間話をしたり、馴染の利用者の近況報告をさせて頂いています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が安心し、満足して過ぎて頂けるよう、一人ひとりの思いや意向の把握に努めています	入居前、担当していたケアマネジャーや家族から聞き取った生活歴や思いをアセスメントシートに記入し情報を共有しています。入居後は日々の関わりの中で利用者の表情やしぐさ、発した言葉、職員が気づいたことを記録し2ヶ月に1回の会議の中で思いを汲み取れるよう話し合いアセスメントにも追記し職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を本人、家族、関係者から伺い、今までの本人の暮らしが把握できるように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から一日の過ごし方や、心身の状態、有する能力の変化に注意し、一人ひとりの現状の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを基に職員からの状態の報告や連絡、意見を聞き、本人らしい暮らしができるように現状に即した介護計画を作成しています	本人や面会時になど事前に聞いた家族の思いを下に介護計画を作成しています。担当者が他の職員の意見を聞き3ヶ月毎にモニタリングを行い1年毎に見直し、変化があればその都度見直しています。見直しの際には再アセスメントを行い、往診時の医師や訪問看護師の意見を反映させた介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式D-4焦点情報シートを基にした個人記録を活用し利用者一人ひとりの情報を職員間で共有し、日々のケアや気付いたことを話し合いながら、介護計画の見直しに活用しています		

グループホーム アネックス パル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生じる利用者のニーズに対応できる支援を心掛けています。日常業務でまかなえないニーズに対する支援の際には、職員の増員や、他部署からの応援で対応することがあります		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、隣接するデイサービスのイベントなどに参加することで、たくさんの人々と接し、いつもの生活とは違う雰囲気を感じ、その時を楽しむことができるように支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を聞き、家族の協力を得ながらかかりつけ医を受診していますが、ほとんどの利用者は、昨年度から往診を利用しておられ、急変時にはいつでも対応して頂いています	入居時にかかりつけ医を継続できることを伝え、協力医がかかりつけ医の方も多く月2回往診を受けています。協力医は皮膚科や他の専門医との連携が図られ受診が必要な場合は職員が付き添いその都度家族に報告しています。急変時には24時間連絡が取れる訪問看護師や協力医の看護師の指示に沿って対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、往診に同行される看護師の方々とは連絡を取り、生活の中での気づきや情報を伝え、適切な指示のもと受診や、看護を受けられる支援をしています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、適切な介護も受けられるように病棟の看護師に利用者の情報を伝え、安心して治療が受けられ、退院時には病院関係者との情報交換や相談ができる関係性を作っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、事業所ができる事を看取りの指針に基づき説明させて頂き、その後、重度化しそうな場合には、きちんと終末期のあり方を家族から聞き取り、必要な時期には、医師が家族に説明し同意をもらったうえで、家族、医師、看護師等の関係者と共にチームでの支援に取り組む体制を整えています	入居時に看取り指針に基づいて説明し、利用者の状態が重度化した場合は改めて医師から状態を説明し意向を再確認し同意を得ています。これまでに看取り支援の経験もあり、支援の際には管理者にいつでも連絡が取れる体制を整えたり、職員は看護師から予想される状態の説明や指示を受けホームで行えるケアにあたっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署の協力で行う事故発生時に備えた研修の参加を義務付け、訓練を重ねることで、実践力を身に付けるようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練は年2回行い、消防署の協力で行う避難訓練は、利用者と一緒に参加し、一人ひとりの力に応じた避難方法や避難経路を確認し防災意識を高めています	防災訓練は年2回行い、1回は消防署の立ち合いの下、1回は消防設備業者の点検時に夜間を想定して実施しています。通報システムの作動方法や避難誘導は利用者と一緒にしています。併設の事業所との協力体制と共に運営推進会議で訓練の案内を行い、災害時地域の避難場所となっています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や個性を理解しそれぞれの力に応じた声掛けを行いプライバシーや誇りを損なわない対応が出来るよう心掛けています	人権や接遇マナーについての外部研修に参加し内部研修で伝え研修内容を共有しています。言葉遣いが馴れ合いになったり不適切な対応がある場合はその都度管理者や職員間で注意し合っています。羞恥心や周りに配慮しさりげない声かけでのトイレ誘導を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き自己決定ができるような働きかけを心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで毎日を自由に過ぎて頂いており、希望があればできる限り希望に添った支援ができるように心掛けています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装は自分で準備し着用しておられる方と、準備できない方には好みなどを聞きながら準備させて頂き着用して頂いています。ヘアスタイルや、白髪が気になっている時には、かかりつけの理髪店に行く支援なども行っています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みをのものを聞いたり話の中で出てきたメニューなどを献立に取り入れ、一緒に買い物に行き食材を吟味し、その人の力に応じた準備や片付けをして頂いています	献立は日々の生活の中で利用者の好みを聞いて決め、買い物や調理、盛り付け、下膳等の出来ることを利用者と一緒にを行い、職員も同じテーブルを囲み同じものを食べながら食事を楽めるよう支援しています。誕生日や行事の際には特別メニューとして外食や喫茶店に出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事バランスを考えた献立を作り、一人ひとりの食事量や水分量を把握し、本人のその時の状態や能力に応じた支援を行っています		

グループホーム アネックス パル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じた口腔ケアを行って頂き、自己にて行える方でも汚れが取れていない時には支援させて頂く 義歯を使用されている人には夕食後以降に義歯を預かり洗浄剤を使用し清潔を保つようになっています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、力に応じた排泄方法で、できる限りトイレでの排泄支援を心がけています	一人ひとりの排泄パターンを把握し出来るだけトイレで排泄できるよう支援しています。夜間のみおむつを使用し日中は紙パンツを使用している方は家族とも相談し夏場は布パンツとパットを使用する等快適に過ごせるよう工夫しています。また退院後にポータブルトイレを使用していた方も早期にトイレで排泄が出来るよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を考え、水分量や食事内容を工夫し予防に取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務の都合上、入浴日を定めていますが、一人ひとりの希望に添える支援を心がけています。たまには気分を変えて、温泉なども楽しんで頂けるようにしています。	入浴は週3回、午前中から夕方に入ってもらっていますが必要な場合は随時の入浴や併設の事業所の温泉に行くこともあります。拒否される利用者については声かけを工夫しながら入れるよう支援しています。好みの石鹸やシャンプーを用いたり、ゆず湯や菖蒲湯の季節湯を楽しんでもらっています。また重度になり入浴が困難となった場合は機械浴の使用も可能です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は共有スペースや各居室で自由に過ごして頂き、夜間は個々の居室で休んで頂きます 季節に応じて寝具の調節をしたり、就寝中には室温、入眠状態などにも気を配り安心して眠れるように支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服用している薬の表を作り、いつでも確認できるようにしています 一人ひとりの力に応じた服薬支援を行い、症状の変化にも注意を払っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に応じた役割を持って頂き、その役割を発揮できる場を持つことで張りのある生活が送れるよう支援し、散歩や、季節に応じた行事を計画し楽しみ、気分転換できるように支援しています		

グループホーム アネックス パル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望で近辺の散歩を行ったり、庭園にあるログハウスでお茶の時間を持ったりしています 普段はいけない場所には、家族にも協力をお願いしたり、職員の増員で、対応できるように支援しています	日常的に洗濯物を干したり、買い物に出かけています。気候の良い時期には近隣を散歩したり、畑の収穫や法人のログハウスでお茶を楽しんでいます。季節に合わせてドライブで桜や菜の花、蓮等を見に出かけ、車椅子の方も一緒に外出する機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何人かの利用者は、家族に、紛失の可能性があることを説明させて頂き了解を得たうえで、お金を所持しておられるが、それを持って使用する機会はなく、外出時にはホームで預かっているお金を使って頂くように支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいとの申し出があれば常識範囲内の時間帯で使用して頂き、電話があれば取り次ぎ、手紙などは手渡すようにしています。電話対応が難しい時には、代わりに対応させて頂き、手紙が読めない時は、代読しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では、混乱をまねいたり、不快な思いをすることがないように配慮し、居心地の良い空間になるよう絶えず工夫し、整理整頓するようにしています	フロアーから見渡せる自然の風景から季節が感じられ、写真や季節の作品を飾り、観葉植物なども置き心地よい空間となるよう配慮しています。ソファや椅子を随所に配置し思い思いの場所に座り寛げるようにしたり、廊下には畳ベンチを置き休憩場所になっています。食卓は相性考えて決めたり、温度や湿度管理にも気を配り居心地の良い空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では利用者が必要とする場所にソファやいすを配置し思い思いに過ごす事ができるように工夫しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の安全を考えた上で、本人に必要と思われるものを家族が自宅から持ってきてもらい、心地よく過ごせる空間を作ってくれています また必要に応じてポータブルトイレや手すりなどを設置しています	居室には使い慣れたタンスやテーブル、椅子、姿見等を置き今までの生活を参考に配置しています。位牌や趣味の本を持ち込み、孫の写真などを飾りその人らしい居室となっています。また体調の変化に合わせて手すりを取り付けるなど安全に過ごせるよう配慮しています。掃除は利用者と一緒にいき、天気の良い日には布団を干し換気を行い居心地の良い空間作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、本人の力を活かし安全を重視し、出来る限り自立した生活が送れるように工夫しています		